

## ◆ JGSSの調査結果が相次いで新聞掲載

原子力発電所の増設や廃止についての意識の動向に関して、JGSSを含む世論調査の結果を基に、岩井紀子センター長がインタビュアーを受けて、朝日新聞の『耕論「原発回帰」と民意』に掲載された(11月8日)。

一方、JGSSで2000年から継続して尋ねている「信仰する宗教」または「信仰していないが家の宗教である」の集計結果を基に、共同通信社が宗教法人を選定して実施したアンケートの結果は、全国40紙以上の新聞に掲載された(12月7日・21日)。

## ◆ 日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」継続助成

2018年度に日本学術振興会(JSPS)より得た「拠点機関におけるデータ共有基盤の構築・強化委託業務」は今年度も継続して採択された。

本業務では、JGSSのこれまでの実績を活かして、人文学・社会科学研究者の研究基盤となり得るデータインフラストラクチャーの構築の重要拠点として、JGSSデータダウンロードシステムの運用と改修、JGSSオンライン分析アプリケーションの開発、JGSSとEASSSデータならびに外部の研究者からの寄託データの整備などに取り組んでいる。

## ◆ 文部科学省機能強化支援と科学研究費基盤AによるJGSS・2022Hの実施

2020年4月に採択された文部科学省の「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」機能強化支援」と科学研究費基盤A(東アジアにおける健康と社会の持続可能性に関する総合的研究・代表 岩井紀子)の一環として、A票とB票の2種類の調査票を用いて、2022年1月から2月にかけて、全国20〜89歳の日本人男女6000人(400地点)を対象に、留置調査法でJGSS・2022Hを実施した。

A票にはEASS(European Social Survey)の設問を組み込んだ。ヨーロッパ諸国と日本においてCOVID・19が人々の生活と意識に与えた影響を把握し、各国の政策やその効果についての比較研究を行う。B票には韓国・中国・台湾チームと共同で実施しているEASS(East Asian Social Survey)の健康モジュール2021を組み込んだ。日韓中台の人々の健康状態・行動および健康にかかわる社会環境について、2010年に実施した調査と比較して各国における変化をとらえ、議論を深化させる。A票とB票の設問の多くは、JGSS・2021Hと重なるが、同じ設問を1年において尋ねることで、COVID・19の感染拡大が続くなかで、人々の意識と行動がどのように変化したかを捉えることができる。

2023年1月からは、COVID・19関連の設問を一部残しつつ、ウクライナ危機で民主主義の行方が問われるなかで、民主主義や政治意識に関連する設問を多く組み込んだJGSS・2023Dを実施する予定である。

## ◆ JGSS研究発表会2022

2022年3月8日に「JGSS研究発表会2022」をオンラインで開催した。公募論文の優秀論文受賞者の報告と、大学院生の奨励プログラム参加者とJGSS研究センター専属研究員による、JGSS/EASSデータに基づく研究発表、JGSS・2021H調査結果の報告が行われた。オンライン開催のため、北海道、東北などの遠方を含めて80名弱の参加者があり、活発な議論が行われた。

## ◆ JGSSデータダウンロードシステム

2022年5月末から、「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」の一環として、JSPSと国立情報学研究所(NII)と協力して構築した本センター独自のデータアーカイブ「JGSSデータダウンロードシステム」(JGSSDDS)の運用を始めた。JGSSDDSでは、JGSSの各年の調査データとともに、都道府県情報も追加データとして公開している。また、EASSデータも

公開している。外部の研究者からのデータ寄託も受け付けており、国際比較調査の日本版データ、行動経済学の実験データ、環境意識に関する調査のデータなどを公開している。

JGSSDDSの運用開始により、調査企画・実施、データの作成から、提供まで本研究センターで一貫して行うことになった。データに修正が生じた際の差し替えや利用者への連絡を速やかに行うことが可能となり、データの利用環境の大幅な改善につながる。

#### ◆ JGSS オンライン分析アプリケーション

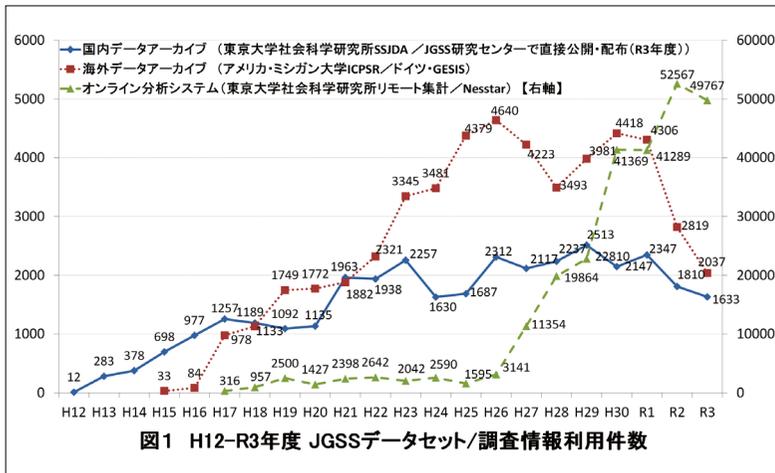
「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」の取り組みの1つとして、ウェブ上でデータ分析ができる「JGSS オンライン分析アプリケーション」を開発して、2022年5月末に公開した。本アプリケーションは、同事業の一環としてNIIが開発した「JDCat分析ツール」上で、JGSSDDSからダウンロードしたデータを読み込んで利用できる。大学の授業で統計分析を学ぶ学部生や、ウェブ上で統計分析を手軽に試したい人など、より多くの人がデータを利用・分析できるようになる。

#### ◆ 特色ある共同利用・共同研究拠点としての中間評価と機能強化支援の申請

2019年度から2021年度までの共同研

究拠点としての活動について、2022年7月に中間評価報告書を文部科学省に提出して、書面評価を受け、9月にはヒアリングが行われた。11月には、「共同利用・共同研究拠点としての活動は概ね順調に行われており、関連コミュニティにも貢献している」ことが評価され、「A評価」を受けた。

2022年9月には2023年度科学研究費



基盤Aに「東アジアにおける社会的ネットワークと社会の持続可能性に関する総合的研究」をテーマに応募し、11月には、文部科学省「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」機能強化支援」を申請した。

#### ◆ JGSSデータの利用状況

JGSSの公開データは国内外で広く利用されている。日本・アメリカ・ドイツのデータアーカイブを通じた公開データの一般利用は、R3年度は5万3千件を超えた。

#### ◆ JGSS最新報告書と出版物

・East Asian Social Survey EASS 2018 Culture and Globalization Module Codebook  
 ・『日本版総合的社会調査研究論文集[20]』

#### ◆ 新JGSS研究員の紹介



沈 育宣(ちん いくけん)

プロフィール：台湾彰化県出身。2022年4月より研究員として勤務。京都先端科学大学人間文化研究科博士前期課程修了。専門は異文化適応と社会心理学。JGSS研究センターでは、データ作成とクリーニングなどを担当している。趣味は読書と音楽鑑賞。